

東愛知 22.4.22



20年の歩みと東三河の映画文化を記録した記念誌を贈る石川会長(左)と佐々木顧問(中)＝市役所で

20年の歩みを一冊に

豊橋「スロートウン映画祭」実行委 記念誌完成、市長へ贈る

豊橋市の中心市街地で20年続く「とよはしまちなかスロートウン映画祭」の記念誌(非売品)が完成、実行委員会の石川誠会長らが21日、市役所で浅井由崇市長に贈った。「まちなか」での観

賞や回遊なども意識した20年。石川会長は「可能な限り続けて文化やまちづくりに貢献したい」と話した。

10周年誌の趣向を引き継いで「まちなかシネマ」これまでとコレカラト

と題した。A4判、96頁全カラーで誌面は二つの幕からなる。

第1幕では「20年の歩み」と「上映作品」の前面と後編で回想。各回の上映作や関連行事などを紹介し、出演俳優の寄稿で誌面を彩る。フィルム協賛のスポンサーもコメント入りで掲載した。映画祭を支える人々のコメント集や独自の運営手法なども紹介する。

第2幕は、佐々木順一郎顧問による地域の映画文化の変遷を特集でまとめた。最盛期の1960年代に40館以上あった映画館について、当時を知る関係者の言葉や写真、宣伝ポスターなどを収めた。まちなか映画館の変遷図や地図などもあり、佐々木顧問は「当時を知る貴重な資料に」と話す。

石川会長は「20年間で豊橋から東三河への文化の広がりも感じた」と振り返った。

記念誌は1000部発行し、市内4図書館に閲覧用に提供。関係者や地区市民館などにも配布した。

【加藤広宣】